## フィールドワーク便り

# 三人でフィールドを行けば文殊の知恵

― 東南アジア島嶼部の生態資源に関する共同研究の経験から ―

鈴木 遥\*

「地域」をどのように理解すればいいのか、私は悩んでいた.「私は…の観点で…学的に地域を見ます」と、自身の地域の見方を簡単に決めてしまってよいものか.研究を進めてゆくうえで自身の見方をもつことは必要だが、その見方だけでは汲みとることのできない地域の現象をどうすれば評価することができるだろうか.たとえ今は無理でも、研究を進めてゆくと、いつかこのことを汲みとれるようになるのだろうか.あるいは私は、地域のとらえ方を別に模索すべきなのだろうか.そんなことを考え始めたが最後、私の研究はじわりとも進まなくなった.

私は自分なりの地域の見方をもとうとしていた。それは木材から地域を理解する、というものだ。木材をとらえる観点は特に限っていない。限っていないのか限られないのか、そのあたりは紙一重なのだけれど。ともかく、木材を中心にすえること以外は臨機応変に見方を変えつつ地域を描くというのが、とりあえずの私の研究スタンスである。

私にはもうひとつ悩みがあった. それは私 が関心を寄せる「地域」をどうしたらもっと 広い地域の中に位置づけられるのか, という ことだった. 私は現段階ではインドネシア東カリマンタン州を研究の対象地域としている. 東カリマンタン州で起こる現象を理解するためには、他地域の状況と比較して、それが地域に限定的に起こる現象なのか、あるいは、もっと一般的な現象なのかを相対的にとらえる必要がある. このため、私は常々、研究対象としている地域以外の地域について考える機会をもちたいと考えていた.

そんな折に、よき先輩の加川真美さん、頼もしい後輩の古川文美子さん(以下の文章では敬称略)と私の三人で、大学院教育改革プログラムのひとつである院生発案共同研究に参加できることになった。このプログラムは、院生三人以上でひとつのグループをつくり、グループごとにテーマを設定しフィールドワークに基づいて研究を行なう、というものである。先のふたつの悩みを抱えていた私は、人の地域の見方を知ることで自分の見方をみつめなおす、さらに、他地域との比較において自身の研究地域をとらえなおす作業をしたいと考え、二人に一緒に研究をしてくれないかと相談をしたのだった。二人は「おもしろそうやね、やってみようか.」と、すぐに私

<sup>\*</sup> 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

の提案に同意してくれた. こうして, 私たち 三人は共同研究をはじめることになった.

共同研究のテーマは,「東南アジア島嶼部 における生態資源と人々のかかわりの現在」 である. テーマ設定について三人で何度も話 し合った結果, 三人の研究対象地域と研究 テーマを包括するようなテーマに決めた。こ れに基づいて私たちは、東南アジア島嶼部に おいて生態環境と深く関連しながら形成され てきた地域社会の現状を生態資源にかかわる 人々の活動に注目して明らかにする、という 研究目的を設定した. 具体的には, 加川は農 業資源を, 古川はマングローブ資源を, 私は 木材資源を取り上げ、これらの資源にかか わって生きる人々の活動をフィールドワーク から明らかにすることにした。 フィールド ワークを行なったのは, 三人の調査地域であ るフィリピン東ネグロス州、インドネシア南 スラウェシ州、同国東カリマンタン州であ る. 私たちは2009年3月中旬から2009年 4月にかけてこれらの地域を三人で巡った. 4月末には、インドネシア・ハサヌディン大 学のマカッサル・フィールドステーションに おいて研究報告会を開催する機会を得た.

三人でフィールドに飛び出してみて最初にわかったことは、視点を少し変えるだけで地域の顔は全く違ってみえるということだった。東カリマンタン州で古川の調査に同行した時、加川と私はマングローブから地域をみることができた。加川も私も、マングローブといえば細長い胎生種子をつける植物だと思っていた。ところが調査中に古川がみつけてきたのは、弾丸のように丸くて重たい胎生

種子だった. 「え!?これもマングローブな ん!?」と加川、私も驚いた、一方、古川は いたって冷静、「こういうマングローブもあ りますよ. | 調査に同行してくれた村の人も、 こんなのどこにでもあるよと言う. この樹種 以外にも, この地域にはさまざまな種類のマ ングローブが生育している. 林内にはテング ザルなどの動物も多く生息する. 人々が開い た養殖池の周辺には、そんな手つかずのマン グローブ林が今も広がっている。 私はこれま で東カリマンタン州において調査を行なって きたが、これほどの豊かなマングローブ林を みたのははじめてだった. マングローブがつ くりだす生態的特性をうまく利用しながら 人々が生きる. ここにあるのはそんな地域の 構図だった.

次にわかったことは、私は自身が思っている以上に東カリマンタン州の調査村の生態環境に慣れてしまっていた、ということだった. 私がこのことを知ったきっかけは、調査の合間に招待された結婚式でのある出来事であった. 結婚式は人生で最も華やかな瞬間



写真 1 小舟に乗ってマングローブ林を行く (2009 年 4 月 15 日に筆者が撮影)

だ. そんな結婚式に招待された私たちはわく わくしながら会場となっているお宅を訪れ、 庭に並べられた椅子に腰をおろした. しばら くして加川が一言こう言った. 「ここの村の 地面はヌメヌメやな. 椅子が地面にめり込ん でいく. こんなぬかるんだ結婚式ははじめて や.」

加川の言うとおりなのである. この村の地面はどこもかしこも常にぬかるんでいるのである. 華やかな結婚式でさえ, ぬかるんだ地面で開かれる. 加川のこの一言を聞いたとき, 私はこの村が低湿地に位置していることに改めて気づかされた. それまで私は, この村のぬかるんだ地面をありふれたものとして受け入れていた. これは, 私がこの村に長く住み込んで調査をしてきており, 知らずしらずのうちに村の生活環境に慣れてしまっていたからだと思う. この村をはじめて訪れた加川の視点によって, 私はこの村の立地を改めて理解することができた.

この村が低湿地に位置していることは, 東 ネグロス州や南スラウェシ州において訪れた



写真 2 スンブル・サリ村のぬかるんだ地面での 結婚式(2009 年 4 月 18 日に筆者が撮影)

地域の土を私自身の足で踏むことによりさら に理解できた. この村ほどぬかるんだ地面は 他地域にはみられなかった. そんなこと、現 地の土を踏まずとも、たとえば植生分布や湿 地の分布を示す地図などから理解できるだろ う, と思われるかもしれない. しかし, 実際 に自分の足で土を踏む経験から得られる理解 は、地図からのそれとは比べものにならない ほど実感を伴うものなのである。 東南アジア 島嶼部において長く未開の地であった低湿 地、居住環境として決してよいとはいえない この土地で人々は生きてきた。加川と一緒に みたこの村の農地には、 さまざまな作物が混 在するように植え付けられていた。あの農地 は彼らが低湿地の生態環境のもとで生きてき た証であり、彼らの低湿地開拓の歴史そのも のである。低湿地というキーワードから、私 は自身の調査地域をより広い地域の中で位置 づけるためのヒントをつかんだ.

三人でともに研究をしてみて、よかった点と苦労した点がある。よかった点は、現地での聞き取り調査が充実したということである。今回の現地調査では、私たちはほぼすべての場所を三人一緒に訪れたため、誰か一人が聞き取り調査をしている時に他の二人がその場に同席する、という機会が何度もあった。一人で聞き取り調査をしていた時、私はインフォーマントへ質問をすることと、それに対する答えを理解することで精一杯だった。相手を目の前にすると、その場の会話を円滑に進めることを意識するあまり、自身の質問内容以上の会話を展開することはなかなか難しかった。ところが、三人で聞き取り調



写真 3 聞き取り調査をする古川さんと、そのやり とりをそばで聞いている加川さん (2009 年 4 月 1 日に筆者が撮影)

査に臨むと、質問をする私以外の二人がこの部分をうまく補ってくれることがあった。質問をする私は通常どおりインフォーマントとの会話に集中するのだが、私以外の二人は横でリラックスして会話を聞くことができる。そのうち二人は会話の合間にひとつふたつと質問をするようになる。彼女たちの視点で発せられた質問は会話に変化をもたらせ、インフォーマントから別の話を引き出す。さらに、それ以降の会話を盛り上げ、結果として聞き取り調査を充実させることにつながった。これは思わぬ発見であった。

一方で、三人で研究をしたからこその苦労があった。それは、研究テーマを設定する際や研究報告書を作成する際に意見を集約させることが難しかったということである。すでに述べたように、本共同研究のテーマは三人の個人研究のテーマを包括するようなものに設定したが、欲をいえばもっとテーマを絞り、各々のメンバーの見方をもっと重ねるようにして考察を行ないたかった。研究報告書

の作成においては、一人が書いた文章を次の 瞬間には別の人が修正するという作業を何度 も何度も繰り返すことで文章を仕上げていっ た. この推敲作業をとおして、私たちはお互 いの地域に対する見方を理解していった. こ の作業は時間と労力のかかる大変なもので あったが、共同研究を終えた今、これこそが 本共同研究の醍醐味であったと思う.

今回私たちが訪れた地域に暮らす人々は, 生態資源を生産・利用するということと生態 環境を管理・保全するということの狭間で暮 らしを営んでいた.ここから私たちが考えた ことは,地域は違っても生態資源にかかわっ て生きる人々が置かれている状況は共通して いる,ということだった.また,この考えに 至ったことで私は,木材から地域をみるとい う私の視点は他地域における生態資源に関す る課題に応用しうるものであるということも 理解できた.ゆえに私は,木材への見方を深 めつつ,木材にこだわる地域研究スタンスを しばらく追及していこうと考えている.

共同研究を終える頃、冒頭に挙げた私の悩みはいつのまにか解けていた。加川と古川とともにフィールドを駆け回ったことで、私は以前よりも広い視野で地域をみることができるようになった。三人で描いた「地域」は一人で描くそれよりも何倍も厚みがあった。私は「地域」がさまざまな人によって評価されることの重要性を改めて感じた。本共同研究での貴重な経験をきっかけに、今後は自身の研究をさらに深めつつ、地域研究の方法としての共同研究の可能性について探っていきたい

# ウガンダの首都、カンパラの劇場に登場した「白人」

大門 碧\*

### はじまり

「ナバタンジ!?」

若い女性が呼びかける. ウガンダの首都, カンパラでの私の名だ. カンパラの人口の半 数を占める民族ガンダのルガヴェ(lugave: センザンコウ)・クラン1) に属する名前だ. ほぼ2年ぶりに調査を再開しようとしてい た私に、「戻ってきたのに、なぜ連絡をよこ さなかったのか」という責め言葉から、彼 女、イヴァは挨拶を始めた、そこは、劇場 ラ・ボニータの裏口だった。イヴァは、2年 前,盛り場のステージで踊っていたが、今 は、エイボニーズという老舗の劇団に入って いた. ラ・ボニータはその劇団の劇場であ る. 彼女は、私を楽屋口まで連れて行き、思 いつきの案を、看板役者、サムに話す.「こ の子(私)を舞台に出してみてはどう?ガン ダ語が話せるから、客が喜ぶ.」大柄でぎょ ろりとした目が特徴の大御所俳優は眠そうな 顔で、「ま、考えてみる」とだけこたえた. 数週間後、イヴァからのワンギリ. かけ直す と、「今すぐ来い」とのこと、そして気づけ ば、私はラ・ボニータの舞台に立っていた. 「白人」役として.

大衆とともにあるエンターテイメント集団, エイボニーズ<sup>2)</sup>

1977年、エイボニーズは音楽を演奏する バンドとして活動を開始したが、不安定な政 情によって、メンバーを失い、その後劇団と して再スタートをきった. 劇場での公演だけ でなく、80年代半ばにはテレビで放映される 連続ドラマを制作し、90年代半ばには、舞 台道具をもって村落地域をまわり演劇を披露 する活動も実施した. そして 2006 年にラ・ ボニータをカンパラに完成させてからは,主 にそこで公演するようになった. ラ・ボニー タの観客席は、二階席も含めて757におよ び、照明、音響などの舞台設備は、日本の劇 場と勝負できるくらい質が高い. カンパラ では最新で一番豪華な劇場である。2010年 2月現在,エイボニーズは役者以外に劇場の 管理や、芝居を上演する際に使用する映像や テレビドラマを制作するスタッフを加えると 70 人を超える大所帯となっている.

息長く活動を続けてきたこの劇団は、ウガンダの演劇研究の中でも言及されてきた [Kasule 1998; Mbowa 2000; Mirembe and Breitinger 2000]. Kasule [1998] はエイボニーズについて、時代背景にあわせて社会や政治問題の原因と解決方法を示す演劇をつくっていると指摘している。確かにエイボ

<sup>\*</sup> 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

ニーズは、状況にあわせてパフォーマンスの スタイルや場所を変化させつつ活躍してき た. そんなかれらは、現在、人びとが日常的 に抱く感情, 愛や嫉妬などをテーマにした芝 居をおこなっている。チケットは1枚2万 ウガンダシリング3)と高い、このため、エイ ボニーズは高所得層向けとも考えられるが, かれらには民間会社がスポンサーについてお り, また各劇団員が知人を招待できる態勢に ある、実際にメンバーが、無職の友人を劇場 に呼んでいる姿を見た、誰もが目にすること のできるテレビドラマの制作もしているかれ らのショーが、金持ちだけを意識してつくら れているとは考えられない. エイボニーズ は、大衆の感覚とともにある集団だと位置づ けてよいだろう.

### 『マイ・バレンタイン』

私が参加することになったのは、バレンタイン・デーにあわせておこなわれる芝居『マイ・バレンタイン』(写真 1)だったが、それは無論、恋愛がテーマである。この作品は「ロマンティック・ナイト」と呼ばれるスタイルをとり、登場人物の感情表現にはすべて歌がともなうというミュージカルのような様相をもつ。約3時間に及ぶ『マイ・バ

レンタイン』では、44曲の歌が使用された。 そのうち、9曲はエイボニーズがかつて別の ショーのためにつくった、ガンダ語(カンパ ラで日常的に使用される言語)で歌われるオ リジナル曲であり、ほかはアメリカのヒッ プホップ, R&Bからカントリーミュージッ ク、年代も1980年代から最近のものまで幅 広く曲を選んで、物語の流れに沿って並べて ある. 1曲3分と考えると公演時間のおよそ 7割以上が歌である。内容は5組のカップル をめぐるもので、1組を除いて、どのカップ ルも浮気が原因で危機が訪れている話であ る. このショーは2007年に制作したショー の再演である. 私は、主な筋とは別に登場す る男性のガールフレンド役をおおせつかっ た. この役は,前回の公演では北欧出身の白 人女性が演じていた.

### 「白人」の役まわり

公演初日は2月14日の日曜日. その12日前,私は演出家カテンデ氏からエイボニーズのメンバーへ,「自分の娘」として紹介され,ショーへの出演を認めてもらった. カテンデ氏のクランと,私のガンダ名のクランが同じで,彼にナバタンジという娘がいたことも重なり,彼は私を「娘」と呼んだ. 2月6

<sup>1)</sup> ガンダは、クラン (氏族) が基本的に外婚単位となる父系出自社会であり、子どもは父親のクランを継承する [Roscoe 1965: 82]。クランごとに名づける名前が決まっており、複数のクランに共通した名前は少ない。そのため、名前でクランを判断することができる。それぞれのクランにはトーテム (ルガヴェ・クランの場合は、ルガヴェ) があり、その動物を殺したり食べたりすることはできない [Roscoe 1902: 28-29]。

<sup>2)</sup> The Ebonies, Theatre La Bonita, & VCL Official Website (http://www.vcl-theatrelabonita.com)

<sup>3) 1</sup> 千 ウガンダシリング = 44.72326 円(2010 年 2 月 14 日 の レート〈http://www.interq.or.jp/world/naoto/benricho/exchange.html〉参照). カンパラで 1 食分は 2 千 ウガンダシリング程度, 中級ホテル のレセプションで働く女性の月給は 11 万 ウガンダシリング, 会社員の月給は 30 万 ウガンダシリング程度である.

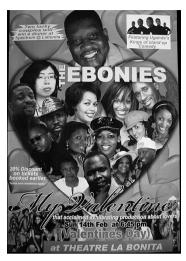


写真 1 『マイ・バレンタイン』(2010年) のちらし

日が私にとっての稽古初日,その後,5日間, 私の登場シーンを含めて今回の『マイ・バレンタイン』で新しく加えた場面の練習,そして全体の通し稽古をおこない,本番を迎えた(写真2).

舞台下手から年輩の男 3 人が姿をあらわす。そのうちの一人が、「これまでにない素敵な女性を手に入れた」と自慢し、『白人の娘さん』4 を歌いだす。5 すると客席の後方からガンダの伝統舞踊を踊る女たちに囲まれて白人女性がやってくる。舞台に上がった彼女は、歌にあわせて踊る。歌が終わると、踊り子たちは去る。



写真 2 劇場ラ・ボニータの舞台に上がった「白人」

前回のショーでは、白人女性はこの後すぐに英語の歌を歌い始めたが、私は「ガンダ語が話せる」ために呼ばれていたので、会話の場面が新しくつくりだされた。あらかじめ用意された台本はなく、カテンデ氏が提案する筋に、ほかの役者たちの意見が積み重なり、台詞が決められていった(以下、特に記載がない場合は、ガンダ語の台詞である)。

男1:(ほかの男たちに)この白人が、わ しがおまえたちに手に入れたと話し ていた人だ

白人: ううん, (日本語で) うち白人やなくて日本人.

男1:なんて?

白人:(日本語で)うち白人やなくて日本 人!

- 4) ガンダ語の曲名は『Omwana w'omuzungu』. ガン ダ語で歌われる人気の音楽のジャンル,カドンゴ・ カム (kadongo-kamu) の代表的存在の歌手,パウ ロ・カフェーロ (2008 年没) の楽曲. 彼が実際に 白人の妻と結婚したときに歌った曲.
- 5) 本文中で断りなしに「歌う」と書いている場合は、 実際に生声で歌っているわけではなく、録音され

た歌に合わせて口と身体を動かす「ロパク」のパフォーマンスをしていることを指す.『マイ・バレンタイン』で歌われる歌は、すべて「ロパク」でおこなわれた.「ロパク」を中心においた芸能もカンパラで発達してきており、その芸能の成立過程や「ロパク」が受容される社会に関しての検討は、別稿でおこないたい.

男1:(ほかの男たちに)彼女,なんて 言った?

男 2: (男 1 に) なんで、お前が俺たちに 聞くんだよ?

男3: (英語で) 自分の理解によると, (ガンダ語で) 彼女はこう言っている, 「俺の頭はまるで大きい石<sup>6</sup> のようだ」

白人: (両手を広げて腰を落として,カン フーを始めるような構えをする) ハッ!!

男性全員,逃げる.

男 2: わあ、彼女、怒った、怒った.

白人: そうは言ってない. 私は白人じゃな くて日本人だって言ったの.

男3:ちょっとまって、彼女、ガンダ語を しゃべってる?

白人と日本人を区別するように要求することを提案したのはカテンデ氏だった。そして「ガンダ語を話すことを客は想定しないから、すぐにしゃべるのはもったいない」ということで、最初は日本語で話すことになった。また、中国人ぽい人たちは武術に長けているというのが、中国映画を楽しむウガンダ人の「常識」なので、「カンフー」をするように要求された。私は知らないのだと言っても、「おまえの知っているのをやればいい」と返

されるばかりだった.

白人:(客席にむかって)でもみなさん, 私は聞きたい,なんであなたたちは 色の白い人すべてを「白人」と呼ぶ のか?

男1:なんでおまえたちが色の白い人すべてを「白人」と呼ぶのかって聞いてるぞ.

白人: (客席にいる男性を指して) あ, そ このあなた, 来て, 来て, こわがら ないで, 来て.

> 白人が客席にいた男性の手を引いて ステージ上に連れてくる.

白人: あなたの名前はなんていうの?

客:自分の名は、カルンバです。

白人: カルンバ, クランはなに?

客 : エンテ (ente: 牛) です.

白人: エンテなの, 私はルガヴェです.

男たち驚く.

男 3: (客席に) ルガヴェの人たち、元気?

普段の会話の中で、私が自分のクラン名を こたえると、人びとは「私たちのことをよく 知ってるわねぇ」と喜ぶ. さらに、相手が私 と同じクランだったときは、カテンデ氏のよ

意味は「車などを動かないようにつっかえさせる大きなもの(石など)」。

<sup>6)「</sup>日本人(ニホンジン)」の発音と似ている「ekijinji (エチジンジ)」という単語を用いている。詳しい

うに、「家族」としてのつながりをつくろうとしてくれる。男 3 が客席のルガヴェ・クランの人びとに呼びかけたのはこういうわけだろう。

『サガラ (Ssagala: 男の名前), サガラ』を白人が歌い,全員で踊る. 踊り子たちも出てくる. 白人と男1を先頭に,その後ろに踊り子たちが続いて客席後方へと去る.

私はガンダ語の歌を歌うはめになったのであるが、稽古の際、まずひとりの若い女性の役者が手本として歌い踊ってくれた。そのとき彼女は男1役の役者の腰に自分の腰を近づけて細かく振ったり、向き合った状態からぽんと跳んで相手の腰に自分の両足を絡みつかせて乗り、一緒に腰を振った。すると見ていた役者たちが手をたたいて叫び声をあげ、稽古場全体が揺れるような盛り上がりを見せた。明らかに性行為をあらわすこの動きは盛り場でのパフォーマンスでもよく見かけるが、男女を問わずに人びとを楽しませている。エンターテイナーとしての血が騒いだ私には、この動きを省くことはできなかった。

初日の3日前、劇場での通し稽古を終えた午後11時半、看板役者のサムが演じるところのヘンリーのガールフレンドのひとりとして私を再登場させてはどうかと、カテンデ氏が提案した。妻帯者であるにもかかわらず9人の女性とつきあっているヘンリーは、バ

レンタイン当日、全員との約束<sup>7)</sup> をうまくごまかすために、事故にあって大怪我をしたフリをして、次々にたずねてくるガールフレンドたちを追い返すが、その直後に、帰ったはずの女性たち、そして妻までが姿を現すというクライマックスのシーンだ。翌日、さっそく台詞がつくられた。

舞台上ではヘンリーと彼の友人が 立って話をしている。そこへ、白人 女性が、下手から花束を持ってやっ てくる。

白人: (日本語で実際に歌う) ラブ, ラブ, 愛を叫ばう, 愛を呼ばう

ヘンリー:(あわてて車椅子に座りながら) 中国人,中国人,中国人…

白人: (ヘンリーが車椅子に座っているの を見て) (日本語で) ヘンリー, え, どないしたん, なにがあった…

ヘンリー:この中国人,ちょっと試してみようかなと思っただけなんだけど, 害虫になりはててしまった。

友人: 害虫? (白人にむかって,中国語の音を真似て) チョンチョンチョーン,チョン.

白人: (ヘンリーにむかって) ちょっと, まず, 私は中国人じゃなくて日本人 よ. 本当にありがとう, しゃべって くれたこと全部.

ジシャンのライブやショーなどを企画するところ は多い.

<sup>7)</sup> カンパラでは,バレンタイン・デー(2月14日) は恋人と外出して楽しむ日である.よって,エイ ボニーズのようにこの日の集客力を狙って,ミュー

友人: え?

白人: あんたは私を試そうとしていただけなの?ああ,そうなの,へー.しかも害虫って呼んだわね,害虫って,

白人女性、どなりながら下手へ去る. その後、ヘンリーたちが逃げようとしたとき、下手、上手から次々とガールフレンドたちが姿を現す. そして客席からは胴衣を着た白人が登場. 最後に、ヘンリーの妻が舞台後方から登場する.

サムは私に「害虫(ガンダ語で olukokobe)」とは「人の皮膚にはりついて血を吸って生きる虫」だと説明した. 普段は聞かない単語だったが、ガンダの民話には「害虫」という物語がある. そこでは若い男に母親のような親しみをおぼえさせて背負ってもらい、その直後男の身体に爪をくいこませて離れなくなる老女が登場する [Kiyimba 2001: 412-413]. 「害虫」には、男にとりつく怪物的なイメージもあるのかもしれない. 「白人」はその言葉に怒り、そして「カンフー」でヘンリーを倒しに行くことを決意したのだった.

### おわりに

2回の追加公演を含め、このショーは計 6回おこなわれた. バレンタイン・デー当日は満席に近い客の入りだったが、それ以外の回は3分の1弱だった。それでも、1,000人以上が2010年版の『マイ・バレンタイン』を

観て、そして私を観て楽しんだと思われる.

今回の「白人」が客の興味をひいたのはガ ンダ語を話したためだけではなかっただろ う. 自分が「白人」ではなく「日本人」であ ることを主張し, ガンダ民族を中心とした現 地の社会を理解し (クラン名をもつ, 性行為 を示す踊りをする、「害虫」と呼ばれたこと に怒る), ウガンダの男を愛し, ウガンダの 女の敵である男を憎んだ、そして「カンフー」 も忘れない、日本人(中国人)のイメージを 強調したり, 地元に近づいたりすることが, 今回登場した「白人」を娯楽性の高いものに 仕上げたのだと思う、そして、このショーで 要求された役まわりをこなして人びとに笑っ てもらった私は、「白人」でありながらも、 このカンパラ社会とともにある方法があるよ うな気になってしまったのである。

本文に記した台詞は、2010年2月28日(日)に 撮影されたビデオから、筆者が聞き取り訳したも のである。いくつかの台詞は、紙幅の関係で割愛 している。

### 引用文献

Kasule, S. 1998. Popular Performance and the Construction of Social Reality in Post-Amin Uganda, *The Journal of Popular Culture* 32(2): 39-58.

Kiyimba, A. 2001. Gender Stereotypes in the Folktales and Proverbs of the Baganda. A thesis submitted in fulfilment of the requirements for the degree of Doctor of Philosophy (Literature) of University of Dar es Salaam.

Mbowa, R. 2000. Luganda Theatre and its Audience. In Eckhard Breitinger ed., *Uganda: The Cultural Landscape*. Kampala: Fountain Publishers, pp. 204-223.

Mirembe, M. Ntangaare and E. Breitinger. 2000. Ugandan Drama in English. In E. Breitinger ed., Uganda: The Cultural Landscape. Kampala: Fountain Publishers, pp. 224-249.

Roscoe, J. 1902. Further Notes on the Manners and Customs of the Baganda, *The Journal of the*  Anthropological Institute of Great Britain and Ireland 32 (Jan.-Jun.): 25-80.

. 1965. The Baganda: An Account of their Native Customs and Beliefs. Second edition. London: Frank Cass & Co. Ltd.

# タイ、混乱の最中から

日 向 伸 介\*

東南アジア大陸部の上座仏教国では、盛夏にあたる4月に新年を迎え「水かけ祭」が各地で催される。筆者は2009年からタイの首都バンコクに滞在しており、この祭を楽しみにしていた。ところが、2009年は元日4月13日を目前に「非常事態宣言」が発令されたため、お祭り気分も一気に吹き飛んでしまった。2010年も直前に非常事態が宣言された。タイの政治・社会は混迷を極めている。以下では、この1年間の経緯を簡単に書きとめたあと、所感を若干述べることにしたい。

事の発端は、2006年9月19日に発生したクーデタにさかのぼる。タックシンを首班とする政権は崩壊し、暫定軍事政権が成立した。ところがクーデタの意図とは裏腹に、2007年12月におこなわれた総選挙ではタックシン派政党が勝利を収めて政権を回復した。これを機に、反タックシン派デモ隊「民主主義のための国民連合」(通称「黄服」

黄色はプーミポン現国王の誕生色に由来する)が活動を再開し、首相官邸や国際空港を占拠した。結局、司法の政治介入と野党の多数派工作の成功により、民主党のアピシット政権が2008年12月に誕生した。

2009年4月の非常事態宣言は、タックシン派デモ隊「反独裁民主戦線」(通称「赤服」、赤色はタイ国の三色旗のうちの一色で、民族を表す)の活動が原因であった。赤服は、アピシット政権を非民主的と糾弾し、解散総選挙を迫った。当初の活動は、主にバンコク市内での大規模集会や首相官邸包囲であった。しかし活動はやがて激化し、4月11日には東南アジア諸国連合会議の会場となっていたパッタヤーのリゾートホテルに乱入し、会議を中止に追いやった。一方バンコク市内では、バスやタクシーで道路を封鎖した。政府は12日に非常事態宣言を発令し、14日にかけて軍が強制排除を決行した。

騒動が落ち着いたかにみえた17日未明,

<sup>\*</sup> 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

筆者は突然の騒音に目を覚ました. はじめは 迷惑な爆竹だと思っていたが、それが実は銃 声であり、黄服のリーダーとして知られるソ ンティが襲撃されたことを、テレビのニュー スを見て知ることになった. ソンティは一命 をとりとめたが、このような物騒な事件が自 宅アパート前で起きるとは思いもしなかっ た.

筆者の住むバンコク都プラナコーン区,それと隣接するドゥシット区は,政治の中心地である.歴史を感じさせる数々の宮殿をはじめ,国会議事堂,首相官邸,最高裁判所,各官庁がひしめきあっている.また,ラーチャダムヌーン(行幸)通りによって結ばれる王宮前広場,民主記念塔,ラーマ5世王騎馬像広場は,社会運動や政治運動の舞台でもある.筆者はその一角にあるタムマサート大学に籍をおきながら,やはり同じ地区内にある図書館や博物館で調査をおこなっている.

この地の利を活かし、デモが始まるたび に会場に足を運んできた. 会場の様子はお およそ次のとおりである. まず巨大な仮設 ステージが設置され、その上で交代制の演説がほぼ 24 時間続く. 周辺の路上では、プロパガンダ目的の本、雑誌、CD、ステッカー、衣服、鳴り物、さらにデモとは直接関係のない商品が並べられる. 飲食関係では露店が多く出ており、炊き出しや飲み物の差し入れも定期的にある. 炎天下で体調を崩しても、仮設診療所で医薬品がもらえる. もちろん仮設トイレもある. また、集会が長期にわたる場合、遠隔地からの参加者は毎日帰宅するわけにもいかないので、テントの下にござをひいて寝ることになる. 全体として、社会運動という言葉から連想される真剣さはあまり感じられず、むしろのんびりとした雰囲気が漂う.

しかし 2010 年 4 月 10 日, 新年を目前に 状況は一変した. 政府が軍による赤服の強制 排除に乗り出したのである. 大学が 16:00 を もって休校となったため, 仕方なく学部図書 館を出た筆者は, 軍のヘリコプターが頭上を 行き交うラーチャダムヌーン通りを歩いて自 宅へ向かった. 民主記念塔までたどり着いた



写真 1 デモ会場脇のマッサージ屋 (2009 年 9 月 19 日撮影)



写真 2 政府軍, 突入直前の様子 (2010 年 4 月 10 日撮影)

ところ、赤服と軍が対峙しており、軍がパーンファー橋集会の強制排除の警告をしていたので、急いで帰宅した。軍の使用した催涙ガスが立ちこめ、戸外にいるのはままならない状況であった。

自宅に戻っても、徒歩 15 分の距離なので、すさまじい数の射撃音と、時おり混じる爆発音が 21:00 頃まで数時間にわたって聞こえてくる. ベランダから眺めると煙があがっており、戦場さながらであった. やがて軍が撤退し衝突が収まったことをテレビ報道で確認してから民主記念塔まで様子を見に行ってみると、電話ボックスや標識は粉々になり、血の生臭いにおいが漂っていた. 置き去りにされた戦車の上では、赤服が勝利の歓声をあげていた. 戦車はこの後も数日間放置されたままで、格好の記念写真スポットとなっていた.

4月10日の衝突は、死者26名、負傷者約860名の被害をもたらした(6月3日現在)。死者には5名の兵士と、ロイター通信東京支社より派遣された村本博之氏が含まれる。赤服は、衝突により亡くなった同志を棺に安置し、民主記念塔の前に祭壇を設置して

写真 3 民主記念塔と祭壇 (2010 年 4 月 11 日撮影)

並べた. 記念塔がまるで大きな墓のようにみ えた.

そのわずか 5 週間後にさらなる暴力と死がもたらされることを誰が想像しただろうか. 筆者も、4月10日のような大きな衝突はもう起こらないだろうと考えていた.

4月14日以降、赤服はパーンファー橋から、もうひとつの拠点であるラーチャプラソン交差点に結集して集会を続け、そこからさらにルンピニー公園へと占拠地を拡大していた。王宮周辺が政治と文化の中心であるのに対し、こちらは商業の中心地である。そのため、集会は経済に大きな打撃を与えていた。政府軍は5月19日に掃討作戦に乗り出し、死者59名、負傷者約470名の被害をもたらした。死者には1名の兵士と、イタリア人記者Fabio Polenghi 氏が含まれる。5月19日に赤服指導部が集会の解散を宣言した後、都内の至るところで放火がおこなわれた。「バンコク炎上」の見出しとその写真が新聞の一面を飾った。

以上の惨事はなぜ起こったのか. アピシット政府と事態解決のために設置された平和維



写真 4 炎上したデパートの一部 (2010年5月23日撮影)

持本部は,「赤服の中にテロリストが存在す る」ことを根拠に強制排除をおこなってき た. これには疑問が残る. 確かに、赤服には 武闘派が存在し、自警団と称して武器を携帯 していたことは事実である. ところが興味深 いことに、軍による強制排除がおこなわれた とき以外は, テロ行為とよべるほどの暴力・ 殺傷事件を起こした者はいない. また, 仮 に「テロリスト」が存在したとしても,何万 人もの一般市民からなるデモ隊とどうやって 選別するのであろうか. 政府は強制排除の前 に, 集会場から退去しない者をテロリストと みなすと圧力をかけたが、これが客観的な指 標とならないことは明白である. テロ対策と 称した市民殺戮の責任の所在は, 政府以外の 何者にもない.

次に、社会運動としての赤服の位置づけを 考えてみたい. 「民主主義」を旗印とする彼 らは、具体的に何を主張していたのだろう か. 2009 年以降次々と創刊された数種類の 機関紙をざっとみると, たとえば次のような 主張がされている:2006年のクーデタを非 民主的な行為とみなし、クーデタによって破 棄された1997年憲法の回復を求めること。 司法の二重規準に反対し,解散総選挙を求め ること、枢密院や官僚による「特権階級」の 政治を打破すること、王室の権威をみだりに 利用することのない本来の立憲君主制を確立 すること. さらに,「特権階級」に対して, 自分たちをあえて封建制時代の「平民」とよ んでいることや、フランス革命への言及が多 いことから、人民主導の体制改革を志向する 政治運動といえるだろう.

タイでは、1970年代の学生運動が反体制 運動の端緒として知られているが、実際、それを経験した世代の知識人が、赤服側の活動 家や機関紙の編集者として多く活躍している。管見の限り、彼らは反体制という立場が 一致するからたまたま共闘しているにすぎない。したがって、赤服の活動はタックシン元 首相の個人的な利益追求のためでしかないという批判は、少なくとも歴史・思想史的な面では見当違いである。それは歴史的文脈から切り離された現象ではなく、民主化を求める社会運動史の文脈からとらえられるべきものである。

それと同時に、1970年代当時と現在とで は運動をとりまく状況が大きく異なっている 点を指摘して本稿を結びたい、第1に、当 時は学生が主役であったが、赤服の主役はさ まざまな地方・階層出身の大人である。運動 の社会的基盤ははるかに強い. 第2に, 情 報伝達手段の限られていた当時とは違い、現 在ではデジタルカメラやインターネットが普 及しているので、情報の発信・受信が容易で ある、当然、政府批判も容易になる、現在、 機関紙やローカルラジオ局といった赤服の主 要メディアはもとより、総計10万を超える ウェブサイトが治安維持と不敬罪を理由に閉 鎖されている。 筆者が普段から閲覧していた サイトもかなり閉鎖されているが、その多く は常識の枠を出ない程度で政府に批判的で あったにすぎない. このような言論弾圧・情 報統制をおこなえば, かえって反発を招くだ けであろう. 第3に、過去にあったような プーミポン国王の仲裁はもはや望めないこと が明らかになった. 国父として臣民の敬愛を受けるばかりでなく,政治にも一定の影響力を保ってきた国王も御年82歳のご高齢である. 立憲君主制の存続のためにも,クーデタや王権に頼らない政治体制の強化が必要である. 第4に,タイと国際社会とのかかわりである. 学生運動が盛んになった1970年代

は冷戦の最中だったので、政府は「共産主義 の脅威」を口実に運動を弾圧することができ た.しかし今では、反共産主義という大義名 分は役に立たない.ゆえにアピシット政府は 「テロリスト」を創り出したわけだが、果た してそれは国際的な信用を得られるのだろう か?

# 外貨経済導入直後の農村

井 戸 雄 大\*

私が調査しているジンバブウェ共和国は南部アフリカに位置しており、南にリンポポ川を挟んで南アフリカ共和国と接している国である。日本でジンバブウェと聞けば多くの人々が「いまでもジンバブウェ・ドルは、年率何億%というハイパーインフレーションが発生していて、みんなたくさんの札束を運んで買い物をしている国」と答えてくれる(写真1)。

私も、毎日ジンバブウェ・ドルの闇両替レートや、さまざまな物資・サービスの値段が上がっていく状況を経験した。アメリカ・ドルを小額のジンバブウェ・ドル紙幣で両替をすると、日本人がイメージするような鞄の中がお札でいっぱいになることもある。

しかし、現在、状況は一変している. ジン バブウェの一般市民は、外貨<sup>11</sup>を市場で使用 しているのだ.もはや,ジンバブウェ・ドルは,バスの運賃<sup>2)</sup> の支払いを除いて利用されていない. 天文学的なインフレーション率を示し,その結果,政府は,度重なるデノミネーションや新紙幣導入を行なったが,2009年2月,ついにジンバブウェ・ドルの使用の停止を宣言し,外貨を市場で利用すること



写真 1 全部で 660 万ジンバブウェ・ドル

<sup>\*</sup> 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

を公式的に認めた. 私の感覚からすれば, ジンバブウェ・ドルは死んだという表現が正しいのではないかと思う. 町の人にまた将来ジンバブウェ・ドルを使いたいかと聞いたが,インフレに疲れ果てた様子で「もう二度と使いたくない」という答えが返ってきた.

### 調査地へ

このジンバブウェ・ドルの利用が公式的に 停止された直後に、私は、ジンバブウェの村 落でフィールドワークを行なった。

私が、調査をしている地域は、ジンバブウェの首都ハラレから北東に直線距離で100km程度の場所にある。この地域は、植民地期ヨーロッパ人入植者が農場を経営していた場所であり、独立後、政府による再入植計画3)によって、アフリカ人に開放された地域である。

私は、久しぶりの村人との再会を楽しみにしながら、村に向かって歩いていると、隣村のある女性に呼び止められた。「ハイ、チャイニーズ。あんたここに何しにきたの?砂金を集めにきたの?いくら出すのよ?」と突然言われ、その時は、なんで俺に砂金のことなんか聞くのだと不思議に思った。

調査村へ着き何日か過ごしていると、しば

しば河川の方へ女性たちが大きな荷物を頭の上に乗せて歩いていく姿を目にした(写真2). 気になって彼女たちに「どこへ行くのか」と聞くと「川へ砂金を採りに行く」という. また毎日, 私のホストファミリーの家にお客が来て, 砂金を何グラム採集できたかということを計測しに来るのである(写真3). 話を聞いていると, 砂金採りは, 当時この地域のほとんどの世帯で行なわれている生業となっていた. この活動は前回の予備調査では, 数世帯しか観察されなかった.

## ジンバブウェの金の歴史

かつてジンバブウェは、金の取引で栄えた 国であった。世界遺産に登録されているグ レートジンバブウェ遺跡は、11世紀から12



写真 2 河川へ向かう女性たち

- 1) 現在ジンバブウェでは、アメリカ・ドル、南アフリカ・ランドの2種類の通貨が、おもに市場で利用されている.
- 2) 一般市民が利用するバスは、日本で走っているワゴン車であり、commuter omnibus を略してコンビと呼ばれている。コンビの運賃は、50セント、5南アフリカ・ランド、500億ジンバブウェ・ドル札で3兆ジンバブウェ・ドルを支払わなければな
- らない.
- 3) ジンバブウェは、植民地期少数のヨーロッパ系入 植者が、ジンバブウェの農地の約半分、優良農地 に限れば、そのほとんどを所有していた。このよ うな不平等な状況を是正するために、独立後、政 府は、ドナーの資金を使い彼らの農場を買い取り、 アフリカ人に移譲するという再入植計画を実施し た



写真 3 砂金の計測

世紀にかけて、インド洋をまたにかけ活躍していたスワヒリ商人と金の取引で大きな富を築いた国であった。このようにジンバブウェでは、昔から金の生産が盛んに行なわれてきたのである。ジンバブウェの産金地帯はジンバブウェ北東地域と南西地域に分けられ、この地域を中心に、グレートジンバブウェ以降さまざまな国が勃興した。現在のこれら地域を中心に、さまざまな規模の鉱山開発が行なわれている[吉國 1999].

### 砂金採りは違法

金は国が管理する資源であるため、収集活動を行なおうとすれば、国が発行するライセンスが必要となる。これをもたないで砂金収集を行なうと、違法行為となり、警察に逮捕されることになる。ここで、私が裁判所で、傍聴した砂金がらみの事件を紹介したい。友人が裁判所で働いていたため、偶然裁判を傍聴するという日本でも体験したことのない貴重な機会を得ることができた。

この事件は、ある場所で砂金の収集活動を 行なっていた女性2人が、何者かの証言に よって警察に逮捕された事件であった.彼女 たちは検察側が言うことを否認しており、検 察が、証人を連れてきたが、結局その証言の 信憑性は低いということで、彼女たちは無罪 となった.

私は、砂金採集の違法性を認識していたが、一度は、どんな作業なのか見たいという 好奇心を抑えきれず、家の人に砂金の収集活動が盛んな場所に連れて行ってもらった.

## 砂金の収集の工程

砂金の採掘は、乾期でも水が絶えない比較的大きな河川で集中して行なわれていた。約300mの範囲で、およそ100人の人々が、砂金の収集活動に従事していた。この活動は、個人ですべての作業を行なう場合と、砂金収集チームを組んで、作業を分担して行なう方法があるようだ。また、その収集期間もさまざまで、短期間だと日帰りで行なうが、中には、2週間程度河川敷に泊まり込んで、作業を行なっている人々も観察することができた。働き盛りの男女だけでなく、10歳程度のこどもさえも、この砂金収集活動に従事していた。

次に砂金を収集する手順を,写真を使って 説明する.

① 穴を掘って土を取る(写真4).

スコップや鍬を使い,河川敷の土を掘っていく. 時には,2m程度の深さの大穴を掘ることもある. 河川敷は土の部分が少なく,大きな岩が埋まっている. これら非常に重い石を掘りだしながら,進めていくため非常に骨が折れる作業であ

- る. ここで働いている若者は、激しい肉体労働に従事しているため、彼らの体にはたくましい筋肉が発達している.
- ② 掘った土を水で取り除いていく(写真5). 掘った土を木製の皿に入れ川の水で土を洗い流していく. 金は、土よりも重いため、丁寧に土を洗い流していけば、最後まで皿の中に残り、これを慎重に採集していく。何回もこの作業を繰り返して少量ずつ砂金を収集していくのである。写真のような姿勢で作業を続けるため、非常に腰が痛くなってくる.



写真 4 砂金の収集の工程① 穴を掘って土を取る.



写真 5 砂金の収集の工程② 掘った土を水で取り除いていく.

③ 採集できたら、ジンバブウェ・ドル札に 包んで大切に保管する(写真 6).

採集した金は、ただの紙切れとなったジンバブウェ・ドル札に包み大切に保管する. 1日中砂金の収集活動に従事すると、約0.1gの砂金を集めることができる. 写真に写っている砂金は、約0.2gであった.

### 砂金の使用用途

村人は、何のために砂金を収集しているのだろうか。村人が、最も砂金の収集に従事していた時期は雨期(2月・3月)である。この時期は、ちょうど食糧の端境期になっている期間である。2008年の収穫期、ジンバブウェでは、主食のトウモロコシが長雨のため不作であり、多くの世帯が、食糧を自給することができなかった。さらに、そこへ外貨が流通したため、農村の多くの人々が、現金にアクセスできない状況に陥った。しかし、どのタイミングで爆発的に砂金収集活動が広



写真 6 砂金の収集の工程③ 採集できたら、ジンバブウェ・ドル札に包んで大切に保管する。

まったか明らかにはなっていないが、仲買人 が砂金を外貨や食糧と交換するビジネスが活 発化した. これによって, 一定の価値をも つ砂金が地域の通貨のようなものとして利 用され始めるようになり、村人は、砂金を 介して,食糧や雑貨を購入したり,砂金仲 買人に売り付けて外貨を獲得することが可 能となった。2009年3月での現金との交換 レートは、砂金0.1g = 2アメリカ・ドルで あった. 村では、トウモロコシ粉 12.5 kg が 砂金0.4gで,調理油1.2Lが0.2gで,村 の近くのダムで採れた小さなティラピア 15 匹, 1.5 kg 程度が, 0.1 g で取引されていた. 私のホストファミリーは、精密な計測器を保 有しており、仲買人とつながりをもつ世帯で あった. 仲買人は、大量のトウモロコシ粉袋 を彼の家に持ち込み、彼が集めた砂金と交換 していた. このトウモロコシ粉の取引は盛況 で, 12.5 kg のトウモロコシ粉 25 袋が, 10 日 間で売り切れるほどであった。彼は、仲買 人と地域の村人との仲介役を行なうことに よって、その差額を得ていたのである。村に は、砂金を買い取りに都市から仲買人がきて おり、村人は、砂金を通じて、外貨にアクセ スできるようになったといえる.「村で回収 した砂金は、南アフリカまで運ばれ、そこで さらに取引される」とある仲買人は言ってい た.

このように砂金の収集活動は、おもに、食糧を得るために行なわれるケースが多いが、食糧が不足していない世帯でも積極的に行なわれている。このような世帯の若年層は自らの小遣いを稼ぎに、空いた時間を積極的に利

用して砂金収集を行なっている。私のホストファミリーには、農作業を行なわないで、もっぱら砂金の収集活動に汗を流している青年がいる。彼の話によると、「結婚資金をためるために砂金収集を行なっている」という。彼は、5月、たった3日間しか家に滞在しておらず、それ以外の日は、村から50kmも離れた遠方の河川敷まで赴きテントを張り、泊まり込みで砂金収集を行なっていた。

### おわりに

本稿では、ジンバブウェ・ドルの利用が停止し、外貨の使用が本格化した直後の住民の生活の一部分を報告した。インフレや外貨利用など、普通考えることもできないような厳しい現実が、ジンバブウェの農村にも押し寄せていた。しかし、村人は、大変だとは言いながらも、今起こっている問題を自分にできる最善の方法で解決するだけでなく、将来を見据えた貯蓄さえも試みている。

私は、この砂金の収集活動から、アフリカ 人の困難な現実を乗り越える底力を垣間見る ことができたと思う。この陳腐な言葉では、 表現すること自体ナンセンスかもしれない が、アフリカ人の大きな魅力であるこの「生 きる力」には私たちアフリカでフィールド ワークをするものはいつも頭が下がる思いが するし、圧倒されっぱなしなのである。

## 引 用 文 献

吉國恒雄. 1999. 『グレートジンバブエー東南アフリカの歴史世界』講談社現代新書.